

## 諸人のここに学びて―校長室から見える風景―(20)

### 卒業生の来訪

先週、校長室に3年生の学年主任がやってきました。進路指導のことかなと思ったら、後ろに若者がいました。なんと、私が以前ここに勤務していたときの学年の卒業生でした。当時学年主任と私は同じ学年団でした。その学年団の卒業生の一人が久しぶりに母校を訪ねてきてくれたのです。大学院を卒業し今は企業で働いているとのこと。変わらない笑顔や話しぶりに私も10年前を思い出しました。センター試験終了後、最終的にどこを受けるかとなったとき、ずいぶん悩み、最後は自分が希望する大学を受験することになりました。そのときの話になり「先生に、二次の英作文でお世話になりました。」と言ってくれてありがたい気持ちになりました。なんとか合格までと思い、こちら必死に英作文を添削したことが思い出されました。あのとき回数を重ねるごとに、彼の書く力がついてきたのがわかりました。そして合格し、今に至ります。大学でも研究に力を注いだのだらうと思いました。少し前にも同じようなことを書きましたが、やはり卒業生の活躍や元気でやっていることが今何よりうれしいものです。そして、母校を思ってくれることも。

秋の深まりとともに、3年生にも受験の雰囲気により感じられるようになりました。進路は一人一人違います。ちょっと焦ったり、気が重くなるときもあるのではないのでしょうか。私も自分が受験生の時に(もうはるか昔昭和のことで恐縮です)、早く決まった同級生をうらやましく思ったこともあったなどこの時期になると思い出します。自分の進路希望に向けて、焦らず一日一日しっかりと過ごしてほしいですね。